

令和6年度

佐賀県小・中学校学習状況調査 及び 全国学力・学習状況調査

— 調査結果 と 指導改善のポイント —

小学校算数科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と児童のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
 - ・ 授業アイディア例
- 5 同一児童の経年比較
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和6年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

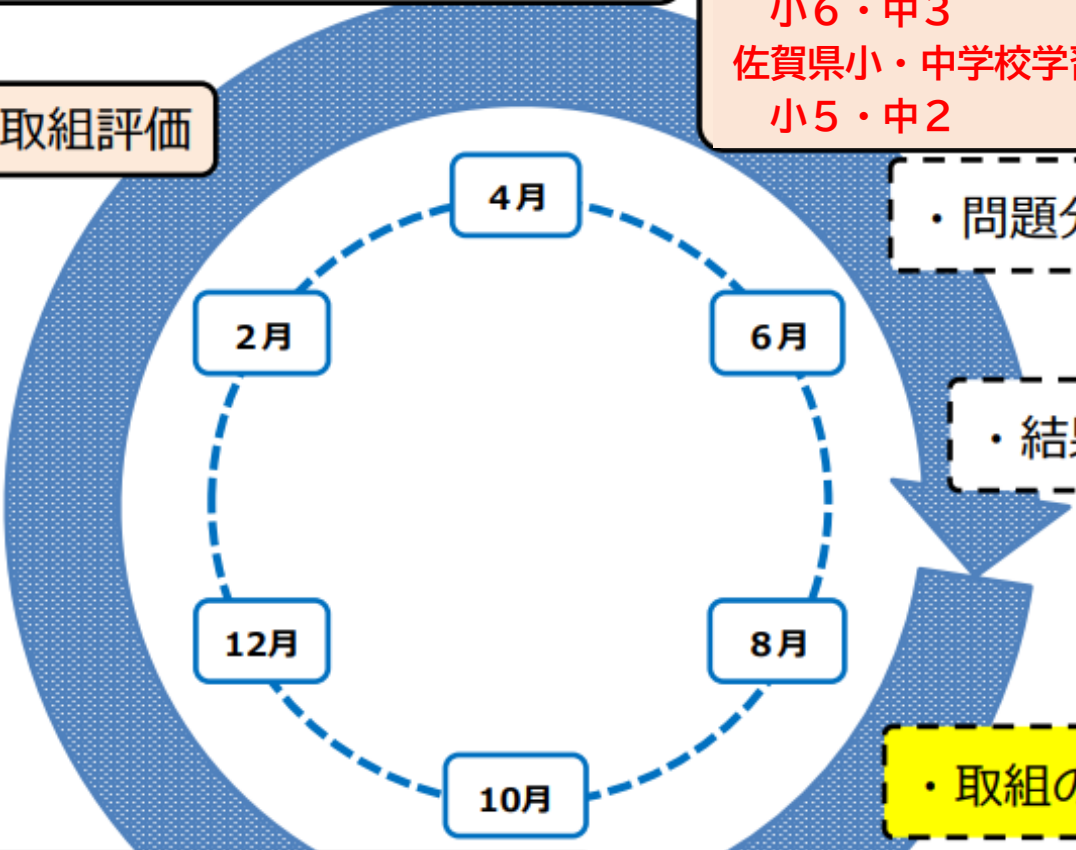
検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和6年4月18日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

小5算数

年度	目標値	県平均正答率
R6	63.3 %	61.1 %
R5	64.8 %	61.6 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-2.2

-3.2

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R6の県平均正答率は、目標値を2.2ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

知識・技能

小5算数

年度	目標値	県平均正答率
R 6	69.2 %	67.2 %
R 5	68.7 %	65.8 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-2.0

-2.9

R6の県平均正答率は、目標値を2.0ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小5算数

年度	目標値	県平均正答率
R 6	45.6 %	42.7 %
R 5	55.0 %	50.9 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-2.9

-4.1

R6の県平均正答率は、目標値を2.9ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、目標値との差が小さくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

小5算数

領域	年度	目標値	県平均正答率
A 数と計算	R6	67.9 %	66.1 %
	R5	66.8 %	64.6 %
B 図形	R6	63.1 %	62.1 %
	R5	60.6 %	54.5 %
C 変化と関係	R6	59.2 %	54.1 %
	R5	68.0 %	69.0 %
D データの活用	R6	53.8 %	50.5 %
	R5	60.0 %	57.2 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－1.8

－2.2

－1.0

－6.1

－5.1

＋1.0

－3.3

－2.8

R6の県平均正答率は、全ての領域で目標値を下回った。
しかし、R5と比べると、「数と計算」「図形」で改善が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

小6算数

年度	全国 平均正答率	県 平均正答率
R6	63.4 %	62 %
R5	62.5 %	61 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-1.4

-1.5

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数で提供されています。

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を1.4ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

小6算数

年度	全国 平均正答率	県 平均正答率
R6	72.8 %	71.8 %
R5	67.2 %	66.1 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-1.0

-1.1

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を1.0ポイント下回った。
しかし、R5と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小6算数

年度	全国 平均正答率	県 平均正答率
R 6	51.4 %	48.6 %
R 5	56.5 %	55.3 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-2.8

-1.2

R6の県平均正答率は、全国平均正答率を2.8ポイント下回った。
また、R5と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》

小6算数

	領域	年度	全国平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率との差 (県平均正答率－全国平均正答率)
A	数と計算	R6	66.0 %	64.4 %	－1.6
		R5	67.3 %	66.4 %	－0.9
B	図形	R6	66.3 %	64.8 %	－1.5
		R5	48.2 %	45.9 %	－2.3
C	変化と関係	R6	51.7 %	48.9 %	－2.8
		R5	70.9 %	69.6 %	－1.3
D	データの活用	R6	61.8 %	59.7 %	－2.1
		R5	65.5 %	64.8 %	－0.7

R6の県平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率を下回った。
しかし、R5と比べると、「図形」で改善が見られた。

第5学年では、令和5年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率（「知識・技能」「思考・判断・表現」）
- 領域別の県平均正答率（「数と計算」「図形」）

第6学年では、令和5年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 教科全体の県平均正答率
- 観点別の県平均正答率（「知識・技能」）
- 領域別の県平均正答率（「図形」）

3 成果が見られた設問

- ◇ 面積の単位の関係を説明することができる。
- ◇ 除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。
- ◇ 折れ線グラフを読み取ることができる。
- ◇ 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。

4 課題が見られた設問

- ◆ 平行四辺形の作図ができる。
- ◆ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。
- ◆ 1目盛りの大きさが違う2つのグラフを基に、間違いを指摘することができる。
- ◆ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することができる。

〈R5県調査及び全国調査で見られた共通の課題〉

- ◆ 図形を構成する要素に着目して、四角形の意味や性質、構成の仕方について理解することができる。

指導改善のポイント

平行四辺形やひし形などの図形を作図することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

- 辺の長さや角の大きさ、垂直、平行などの図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目して、児童自ら図形の性質を見いだす学習活動を設定する。
- 図形の性質を基に、平行四辺形やひし形などの作図の仕方を考える学習活動を設定する。
- 作図した図形が正しいかどうか、図形の構成要素やそれらの位置関係を視点として、互いに確かめる学習活動を設定する。

指導改善のポイント

速さが一定であるときの道のりと時間の関係など、異種の二つの数量関係について考察することができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 速さを比べる日常生活の場面から、数値が大きい方が速いのか、小さい方が速いのかについて考える学習活動を設定する。
- 商が単位時間あたりに進む道のりであることを、数直線や図などを用いて確かめる学習活動を設定する。
- 時間と道のりのどちらを単位量にするかによって、求めた商が大きい方が速い場合と、小さい方が速い場合があることに気づき、どちらが適しているのかを考え、判断する学習活動を設定する。

指導改善のポイント

表やグラフなどから必要な数値を読み取り、見いだしたことを表現できるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

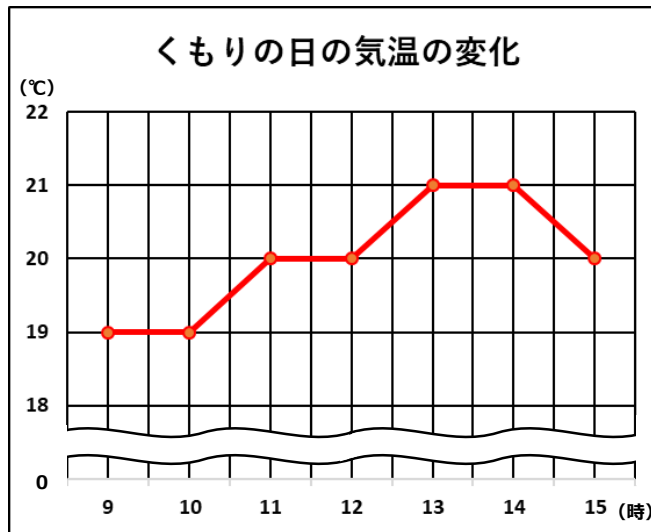
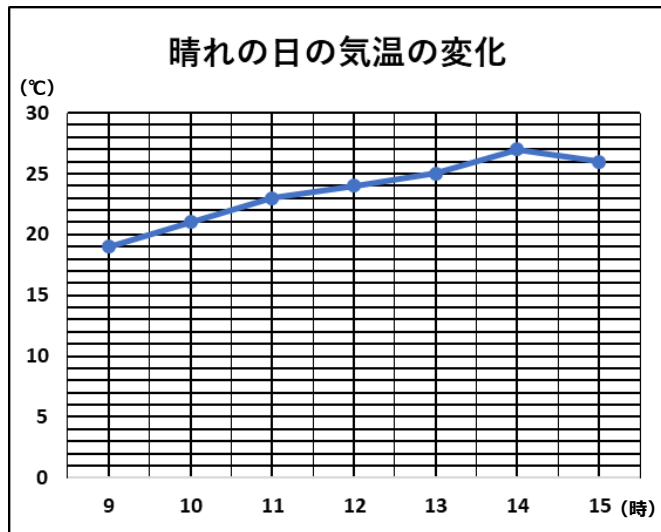
- グラフの傾きや目盛りの幅や大きさなどに着目して、データの特徴や傾向について話し合う学習活動を設定する。
- グラフの特徴について考察したことを基に、目的に応じたグラフに表現し直す学習活動を設定する。
- 表やグラフなどに表して導いた結論が、問題の解決にかなうものであるのかどうか、また、結論は正しいか誤りかということを考察する活動を学習設定する。

4 課題が見られた設問

23

授業アイディア例

(グラフの傾きや目盛りの幅や大きさなどに着目して、データの特徴や傾向について話し合う活動の例)



10時から11時までの間で、晴れの日とくもりの日のどちらの方が気温の変わり方が大きいでしょうか。



10時から11時の間の気温の変化を比べると、くもりの日の方が、グラフの傾きが急に見えるから、気温の変化も大きいと思います。

でも、10時と11時の気温を読み取ると、晴れの日では21°Cから23°Cで2°C上がっていて、くもりの日は19°Cから20°Cで1°C上がっています。

1目盛りの幅が違うから、グラフの傾きだけでは比べられません。

グラフを比較するときは、それぞれの目盛りの幅や大きさなどに留意する必要があることに気付かせることが大切です。

4 課題が見られた設問

24

授業アイディア例

(グラフの特徴について考察したことを基に、目的に応じたグラフに表現し直す活動の例)

2つの気温の変化は、グラフをどのように変えると比べやすくなりますか。



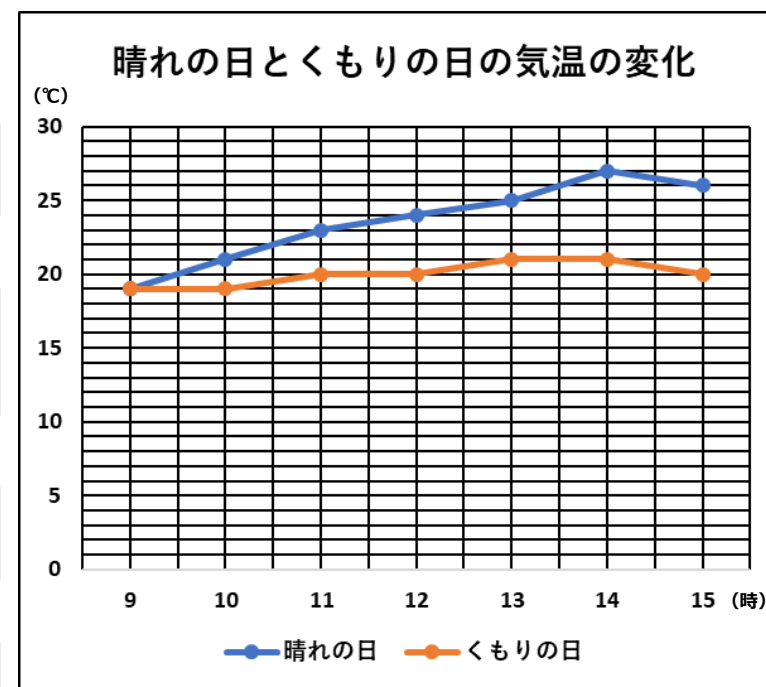
それぞれのグラフの目盛りの幅をそろえるとよいと思います。

だったら、1つのグラフ用紙に晴れの日とくもりの日を重ねてかくと、比べやすいと思います。

10時から11時までの間の気温を比べると、晴れの日の方が、グラフの傾きが急だから、気温の変わり方が大きいと言えます。

グラフ全体を見ると、晴れの日気温の変わり方は大きいけど、くもりの日の気温の変わり方はあまり大きくありません。

1つのグラフに表すと、晴れの日とくもりの日の気温の変わり方が比べやすくなります。



グラフの特徴について考察したことを基に、目的に応じたグラフに表現し直すことが大切です。

4 課題が見られた設問

25

授業アイディア例

(表やグラフなどに表して導いた結論が、問題の解決にかなうものであるのかどうか、また、結論は誤りでないか、ということを考察する活動の例)

くもりの日はいつでも気温の変わり方が小さいですね。



これは何月の記録なのかな。季節によって違いはないのかな。



北海道と沖縄など、場所によっても違ってくるのかもしれないね。



この日がたまたま気温の変わり方が違ったということはないのかな。



それについては、このデータだけでは分かりません。



どのようなデータがあれば解決できるのでしょうか。



導いた結論が誤りでないかを考察する活動を設定することが大切です。また、新たな疑問を解決するためにはどのような資料が必要なのかを考えさせることも大切です。



5 同一児童の経年比較

5 同一児童の経年比較

〈 R6全国調査結果とR5県調査結果との比較 〉

領域	R6全国調査 対全国比	R5県調査 対全国比	R6-R5
A 数と計算	0.98	0.93	+0.05
B 図形	0.98	0.89	+0.09
C 変化と関係	0.95	0.92	+0.03
D データの活用	0.97	0.95	+0.02

※全国調査には目標値が設定されていないため、対全国比での比較

※対全国比
(県平均正答率÷全国平均正答率)

※県調査の全国平均正答率は、調査に参加している児童生徒(各教科約10万人)の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、R6ではR5から全ての領域で改善が見られた。

6 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

- ◆ 「図形」領域で、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目して、児童自ら図形の性質を見いだすことができるようにする。
- ◆ 「変化と関係」領域で、日常生活の場面から、二つの数量の関係に着目して、その関係を用いて知りたい数量の大きさを求めることができるようにする。
- ◆ 「データの活用」領域で、表やグラフなどから必要な数値を読み取り、見いだしたことを表現できるようにする。

全ての教科の授業において、指導改善を図る！

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着
 - ・ 既習の知識・技能を活用し、課題を解決するなどの学習活動の設定
- 自分の考えを表現する学習活動の充実
 - ・ 根拠を明らかにし、これまで学習した事柄、各教科ならではの言葉を使って表現する学習活動の設定
 - ・ 児童同士が話し合い、考えをよりよいものにしていく学習活動の設定
- より考えを深める発問の工夫
 - ・ 「なぜ」「どうして」などの理由を問う発問
 - ・ 複数の読み取ったことを関連付けて考える発問

本資料で示したものは、佐賀県全体の調査結果です。各学校においても、分析を行い、児童の実態を踏まえた指導改善を図っていきましょう。